

## 就職活動経験から得られた気づきについての事例的検討 A Case Study of Awareness through Employment-seeking Activities

森本 康太郎  
Kotaro Morimoto

Employing intertemporal interviews at employment-seeking activities' beginning and height, this case study explored descriptively how a university student thought and acquired awareness during the said activities. Analysis of the description indicated that (a) the student acquired a view of medium- and long-term career development as he became more experienced in employment-seeking activities and that (b) he could accept himself realistically and accurately through introspection enabling deeper self-understanding. These indicators suggested that the student changed by reframing his past, present, and future self during the process of career decision-making.

Keywords: university student, employment-seeking activities, awareness, introspection, career development

### 1. 問題と目的

大学生にとっての就職は、重要なライフイベントである。これを成功させるために必要となる就職活動には、実際に就職先を確保するという現実的な課題の達成と、就職活動の経験によって自己の発達課題を達成するという二つの側面がある。後者については先行研究によって、就職活動が自己成長につながるという知見が示されてきた。例えば、浦上<sup>[1]</sup>は、就職活動によって女子短大生の自己成長力が高まることを明らかにし、小島<sup>[2]</sup>は、就職活動の経験によって学生の能力向上などの肯定的変化が見られることを指摘している。これらは、就職活動の経験が学生にとって好ましい変化をもたらすことを示している。一方で、就職活動中における変化がどのようなものであるかについての知見は、さほど多くない現状にある。

例えば、高橋・岡田<sup>[3]</sup>は、就職活動による自己成長感の検討に際し、就職活動による変化を概念化しているが、ここでは、就職活動を経験して就職した新入社員に対するインタビューによってデータが収集されている。また、西田・種市<sup>[4]</sup>は、大学生の進路決定を時間的な幅を持ったプロセスとして捉えるために、就職活動開始時、活動中、終了時の3時点における就職活動時の考えや感情をインタビューしているが、ここでは一度の調査で3時点のことを回顧的に聴きとっている。就職活動において、個人の中でどのような変化が起こっているのかについての知見は、就職に関する目の前の問題だけでなく、人生全体を視野に入れた進路指導の実践を支えるために重要である<sup>[5]</sup>。この指摘を踏まえれば、就職活動を経験する個人の中でどのような変化が生じたのかを、より詳細に明らかにする必要があるといえる。そのためには、上記のような

検討に加えて、リアルタイムで就職活動を経験している学生に対し、時間的変化を考慮した異なる時点でのデータによる検討も必要であるといえよう。

そこで本研究では、就職活動中に学生がどのようなことを考え、気づいたのかについて、就職活動を本格化させた時期である3年次生1月時点と、就職活動が進行して内定を獲得している時期である4年次生5月時点の2時点から、事例紹介として記述的に検討することを目的とする。

### 2. 方法

#### 2.1 調査協力者

就職活動を経験したA大学の社会科学系学部にも所属する学生1名を調査協力者とした。調査協力者は、就職活動に継続して取り組み、進路就職を決定できた大学生であった。紆余曲折ありながらも活動を止めずに続けたことがわかっていれば、その経験を通じて得られた変化や成長を把握することができる。その中から学生の成長した側面を抽出することで、単なる就職先確保にとどまらず、学生自身の成長を促すための職業指導やキャリア支援に役立つ示唆を得られると考えた。

#### 2.2 調査時期

2021年1月と2021年5月の2時点。

#### 2.3 データ収集の手順

事前に準備したインタビューガイド(表1)に基づいた半構造化インタビューを実施した。インタビューはウェブ会議システムを利用して行われ、1回目は44分間、

表 1 インタビューガイド

1. 調査協力者に関する基礎情報  
(年齢, 学部・専攻, 出身, 居住形態, サークル活動, アルバイト等)
2. 就職活動に関する基礎情報  
(説明会参加社数, エントリー社数, 面接を受けた社数, 内々定を得た社数等)
3. 就職活動に関する考えや感情  
(就職活動のイメージ, 具体的な活動内容, 志望業種・企業の有無とその理由, 活動開始後考えたことや感じたこと, エントリーした業種・企業の有無とその理由, 選考が進んでいる時の気持ち)

2 回目は 53 分間であった。インタビュー内容は録音され、発語内容は逐語録として作成された。

## 2.4 データ分析の手順

インタビューによって得られたデータは、大谷<sup>[6][7]</sup>によって開発された Steps for Coding and Theorization (以下, SCAT) によって質的に分析された。SCAT とは、マトリクスの中にセグメント化したデータを記述して 4 つのステップを踏んでコーディングを行い、そのコーディングから得られたテーマ・構成概念を紡いでストーリーラインを記述し、そこから理論を記述する手続きからなる分析手法である<sup>[7]</sup>。SCAT は、①一つだけのケースのデータなど比較的小さな質的データの分析にも有効である、②明示的で定式的な手続きである、③分析過程の振り返りや再検討が可能であるため、分析の妥当性や反証可能性が高められる、といった特徴を有する<sup>[6][7]</sup>。

## 2.5 倫理的配慮

本研究は、関西大学大学院心理学研究科研究・教育倫理委員会による審査を受け、プライバシーの保護や機密性の保持のもと調査協力者の同意を得た調査として承認されている (承認番号第 162 号)。

## 3. 結果

得られたインタビューデータの中で「就職活動をして気づいたこと」を示す箇所に着目し、SCAT による分析を行った。分析の過程を表 2, 3-1, 3-2 に示す。

次に、分析から得られたテーマ・構成概念からカテゴリーを抽出した。浦上<sup>[5]</sup>では、20 歳代から 30 歳代の就職活動経験者による自由記述から、「就職活動をして気付いたこと」に関する内容分析を行った結果、「就職活動について」、「会社について」、「自分自身について」、および「その他」の 4 カテゴリーが抽出されている。本研究ではこれを参照し、「就職活動について」、「業界について」、「自分自身について」の 3 カテゴリーを構成した。さらに、浦上<sup>[5]</sup>では「就職活動について」は、「安易な活動」と「活動の方法」の 2 つの下位カテゴリー、「自分自身について」は、「自分への教訓」と「自己分析・理解」の 2 つの下位カテゴリーを含む。これを参照し本研究では、「就職活動

について」は、「目指したいあり方」と「活動の方法」、「自分自身について」は、「自分への教訓」と「自己分析・理解」の 2 つの下位カテゴリーをそれぞれ抽出した。

続いて、ストーリーラインを示す。ストーリーラインとは、データに記述されている出来事に潜在する意味や意義を、主に<4>に記述したテーマ・構成概念を紡ぎ合わせて書き表したものを指す<sup>[6][7]</sup>。以下に、カテゴリーごとのストーリーラインを記す。下線部は、SCAT で記述された<4>テーマ・構成概念を示す。

### 3.1 1 回目インタビューデータのストーリーライン

「就職活動について」を構成するサブカテゴリーのうち、「目指したいあり方」のストーリーラインは、「満足して働ける就職を目指すには、就活の中間点としての内定獲得を実現する一方で、価値観と合う就職を追求することが必要。実際には、就活の偶然的進行を経験しながら、早い内定獲得に執着しない姿勢を持ち、自分としてできる最善に取り組むことが大事になる。また、内定を獲得した際、その企業の業界内での順位を考慮して、より上位企業への志望意向を持つ場合は、志望度と企業順位の一致を図ることになる」と紡いだ。

「就職活動について」のもう一つのサブカテゴリー「活動の方法」のストーリーラインは、「自宅から参加可能になったオンライン化就活には距離によらない利点があり、実地での従来型就活にはない新しい形式のメリット実感を持つ学生がいる。具体的な選考では、足りるにあわないための対策に加えて、印象のよい会話スキルを磨くために、うまく話すためのスキル不足を克服するための実践を通じた練習が必要だと感じる」と紡いだ。

「業界について」のストーリーラインは、「食関連業界を志望する理由は、食事と健やかな生活はふだんの笑顔に結びつくため、人の笑顔をつくる仕事は人の幸せに直結すると考えているからである。食べ物に扱う姿勢から食品ロス問題への強い関心が高まり、それが食品廃棄の解決への興味を高めた」と紡いだ。

### 3.2 2 回目インタビューデータのストーリーライン

「就職活動について」を構成するサブカテゴリーのうち、「目指したいあり方」のストーリーラインは、「企業研究など職業理解が進むと、職業人としての自己像が明

確化し、仕事の中で自分がどのようにやりの希求をしているかが分かる。その一方で、転職の一般化が進んでいても初職の重みの認識は変わらず、自分と就職先の価値観の合わなさが生むストレスを回避するためには、自分の持つ価値観の確認が重要といえる。その結果として、必要な人材として受け入れられる就職が実現することを希望する」と紡いだ。

「就職活動について」のもう一つのサブカテゴリー「活動の方法」のストーリーラインは、「就活戦術としての内定キープによって内定獲得がもたらすゆとりが生まれる一方で、内定を一つ獲得した現状への満足感が招く達成

意欲の冷却が生じることから、内定を確保することの長所と短所は一体であるといえる」と紡いだ。

「業界について」のストーリーラインは、多忙サービス業としての飲食業への就職を考える上では、アルバイトからは業界内部の実態が見えない不安や、社員の強い労働負担強の印象がネックである。スーパー業界への就職は、魅力ある食の仕事に就けるという良さの一方、大事な食べ物を捨てる不合理な仕事という側面がある。ドラッグストア業界については実習としてのアルバイト経験によって、慣れという経験値を上げることができたため、この業界への就職は現実的に捉えている」と紡いだ。

表2 SCATによる1回目インタビューデータの分析

番号	テキスト	<1> テキスト中の 注目すべき語句	<2> テキスト中の 語句の言い換え	<3> 左を説明するような テキスト外の概念	<4> テーマ・構成概念 (前後や全体の文脈を考慮して)
1	僕の就活の軸は、人を笑顔にできる職業に就きたいと考えていて、そのなかで、日常生活の中で笑顔にしたいなって考えて、食や健康に携われると、一番密接に人の笑顔につながるのかなと思って、食の方で探そうと思っています。	僕の就活の軸は、人を笑顔にできる職業に就きたいと考えていて／日常生活の中で笑顔にしたい／食や健康／一番密接に人の笑顔につながる	第一志望は人を笑顔にする職業／日常生活のなかの笑顔／食べることや健康な生活／人の笑顔に直結	人の幸福に貢献する職業／笑顔の暮らし／健康やかな毎日／人の幸せ	人の笑顔をつくる仕事／ふだんの笑顔／食事と健康な生活／人の幸せに直結
2	僕はフードロスに関してすごく、食べ物自体に感情移入しやすいとか。捨てるってことがすごくいやなので、そこを減らすことに携われたいなって思っています。	フードロスに関してすごく、食べ物自体に感情移入しやすい／捨てるってことがすごくいや／そこを減らすことに携われたい	フードロスへの強い思い入れ／食べ物を捨てることへの嫌悪感／食品廃棄を減らす	食品廃棄への違和感／食べ物を粗末にしない／食品廃棄問題の解決	食品ロス問題への強い関心／食べ物を大事に扱う姿勢／食品廃棄の解決
3	理想はいまの自分の軸に沿った企業から内定をもらうことがいいことなかなって思うんですけど。でも、就活は内定もることがゴールじゃなくて、そのあと満足して働ける環境であることも大事だと考えています。	自分の軸に沿った企業から内定をもらう／就活は内定もることがゴールじゃなくて／そのあと満足して働ける環境であることも大事	自分の軸に沿う企業からの内定獲得／内定獲得そのものがゴールではない／内定後満足して働けるかが重要	自分の方向性と合致した就職／中間地点としての内定／実際の就職先としての満足	価値観と合う就職／就活の中間点としての内定獲得／満足して働ける就職
4	オンラインで家からインターンや説明会に出るのは、交通費もかかりませんし、全国から集まれるという、すごいことだなと思える半面、去年までの人たちが全部自分たちの足で経験していたことを考えると、すごいことだなと。それでできたかなと、不安もあります。	オンラインで家からインターンや説明会に出るのは、交通費もかかりませんし、全国から集まれるという、すごいこと／去年までの人たちが全部自分たちの足で経験していた／それでできたかなと、不安もあります	オンライン化されたインターンシップや説明会では交通費が不要／全国から参加可能な良さ／去年まではすべて対面で経験／同じ方式では取り組めなかったかも知れない	オンライン化による就活環境の変化／選考へのアクセス向上／実地対面による選考／現状への安堵	自宅から参加可能になったオンライン化就活／距離によらない利点／実地での従来型就活／新しい形式のメリット実感
5	そうですね。早く内定をもらったからいいということでもないと思うので。企業さんとの縁もありますし。運のところも考えると、確率的にはそれくらいになっちゃうのかなと。限りなく確率をあげるために、自分ができることを精一杯やっています。	早く内定をもらったからいいということでもない／企業さんとの縁／運のところも考える／限りなく確率をあげるために、自分ができることを精一杯やっています	早い内定獲得がいいわけではない／企業とのめぐり合い／運次第の面／希望が叶うよう最善を尽くす	内定獲得至上主義への反発／偶発性／予期せぬできごと／現実への正対	早い内定獲得に執着しない姿勢／就活の偶発的進行／自分としてできる最善
6	もしそこが最終選考受かったとしても、第一志望ではないので。もう少し他の、よりいい場所に行けたらと思って、それも含めた30%になっています。業界としては第一志望なんですけど、企業で見た時に第一ではない／もっと上の、自分に合うところを見つけたい。	もう少し他の、よりいい場所に行けたら／業界としては第一志望なんですけど、企業で見た時に第一ではない／もっと上の、自分に合うところを見つけたい	もっと上の志望企業／志望業界内の第一志望ではない企業／志望度の高い企業を目指したい	上昇志向／業界内のポジション／企業ランク	上位企業への志望／業界内での順位／志望度と企業順位の一致
7	まず学力検査、SPIとか、そういうものは落とされないように最低限の勉強をすること、を今しているの。面接であったり、笑顔、人としゃべるのが苦手なので、はきはきとしゃべることであたりとか、考えをまとめるというのを、人と話す機会を増やして、練習しようかなって考えています。	学力検査、SPIとか、そういうものは落とされないように最低限の勉強／人としゃべるのが苦手なので、はきはきとしゃべること／考えをまとめるというのを、人と話す機会を増やして、練習	学力検査への対策／苦手な会話／明朗で簡潔な話／人と話す練習	足りる対策／会話術／プレゼンテーションスキル／リハーサル	足りるにあわないための対策／うまく話すためのスキル不足／印象のよい会話スキル／実践を通じた練習

表 3-1 SCATによる2回目インタビューデータの分析

番号	テキスト	<1> テキスト中の 注目すべき語句	<2> テキスト中の 語句の言い換え	<3> 左を説明するような テキスト外 の概念	<4> テーマ／構成概念 (前後や全体の文脈を考慮して)
1	いろいろ会社のことを調べたり、企業研究を重ねる上で、働くイメージが自分の中でパソコンカタカタとか、人の面会を通して人と会って、というのは働くイメージとしてあったんですけど、それを自分がするってなった時に、本当に楽しめるというのか、仕事の中でやりがいをどうやって見つけるのか、具体的にあまり見えてこなくて。企業さんの質問回とか通しても。	働くイメージ ／仕事の中でやりがいを どうやって見つける のか	仕事をしている自己像 ／やりがいの見つけ方	職業的の自己概念／やり がいの発見	職業人としての自己像 ／やりがいの希求
2	だったら自分のアルバイトの経験であったり、社員の方の働きぶりを見る限り、色々な人と日々多くの人とかかわっていく中で、何か人のために役立っているなって実感できるような、接客業というのが自分の中でやりがいを感ずる部分につながるのかな、っていうのが就職活動のなかで感じた部分なので。接客業を多く受けたんだと思います。	自分のアルバイトの経験 ／社員の方の働きぶり ／何か人のために役 立っているなって実感 できる ／接客業というのが自 分の中でやりがいを感 ずる部分	アルバイトによる職業 経験／社員の労働実態 ／他者への貢献の実感 ／接客を通じて感じる やりがい	実習経験／ロールモデ ルとしての社員／他者 有用感／直接的対人 サービス	就労体験としてのアル バイト／勤労者ロール モデルとしての社員／ 人のためになっている 実感／直接の対人接遇
3	飲食業っていう独特の忙しさがあったり、苦勞っていうのも今までバイトでは経験してきてないんで。そこにいきなり飛び込んで自分が活躍できるかっていう、ちょっと不安に感じている部分であったりとか。友人に相談している部分で、飲食のバイトしてた人たちが、やっぱり社員さんはしんどそうとか。社員の苦勞っていうのを噂で聞くと、自分にできるのかなっていう不安があったりとか。	飲食業っていう独特の 忙しさ／そこにいきな り飛び込んで自分が活 躍できるか／不安に感 じている部分／社員さ んはしんどそう	飲食業特有の多忙さ／ 未経験業種に対する不 安／社員への負担	忙しいサービス業／見 えない業界内実／つら そうな社員	多忙サービス業として の飲食業／業界内部の 実態が見えない不安／ 社員の強い労働負担強
4	スーパーも、食に関わるとい部分ではすごく楽しみにしてたんですけど、フードロスを目の当たりにしたときに、自分の中でものすごくやるせないさとか、しんどさとか。出来る限りなくしたいけど、営業利益あげるためには、品ぞろえを豊かにしないとイケないとか。そういう部分で、食品がもろに廃棄されるのを見て、自分の中で続けられるのかなあとか。	食に関わるとい部分 ではすごく楽しみ／ フードロスを目の当た り／やるせないさ／し んどさ／食品がもろに 廃棄される	食に関わる仕事の楽し み／食品廃棄の直視／ どうしようもなくつら い	食関連業界の魅力／目 の前の食品廃棄の矛盾 ／耐えられなさ	魅力ある食の仕事／大 事な食べ物を捨てる不 合理的な仕事
5	ドラッグストアだと、アルバイトでみてる部分、自分ですごくイメージしやすいんで、ちょっといま、ドラッグストアの方がいいのかなとか。慣れの部分であったりとか。イメージしやすい部分に寄せちゃっているというか、そういう部分に重きを置いてやっている面があるというか。ちょっといまは、ドラッグストアのほうがいいかなと思ってます。	アルバイトでみてる部 分、自分ですごくイ メージしやすい／慣れ の部分	アルバイト経験による 実像理解／経験値	アルバイトによる実地 経験／場数を踏む	実習としてのアルバイ ト／慣れという経験値
6	早いのがいいとは今でも思っていないんですけど、一つあるのとないのとは、心理的な余裕がかなり違うっていうのは、自分の就活スタイルであったり、友達の話の聞いたりして、ま、捉え方も人それぞれだと思うんですけど、最悪行ってもいいかなっていう企業を一つ持っておくというのは、就活をうまく進めるためには必要なのかなと思いました。	一つあるのとないのと では、心理的な余裕が かなり違う／最悪行っ てもいいかなという 企業／就活をうまく進 めるためには必要	内定獲得による気持ち のゆとり／併願先とし ての企業／就活を進め る上の戦術	就活における内定獲得 の意味合い／内定キ ャップ／就活戦術	内定獲得がもたらすゆ とり／就活戦術として の内定キープ
7	就活を通して自分を見つめ直すいいきっかけになったというか。いい面で、自分が何を基にして行動して、何を逆にネガティブに考えてしまうのかという、自分を見つめ直すきっかけになったと感じていて。今まで働くことを通してとか、人生観とか深く考えてこなかったんですけど。	自分を見つめ直すいい きっかけ／自分が何を 基にして行動して／何 を逆にネガティブに考 えてしまうのか／今ま で働くことを通してと か、人生観とか深く考 えてこなかった	自己を見つめ直す機会 ／行動の基準／ネガ ティブ思考／生き方、 働き方の認識不足	内省の機会／価値観／ ネガティブな評価的認 知／勤労観を持つ必要 性	自己像を内省する好機 ／行動を定める思考基 準／内省による勤労観 の深まり
8	転職ありきの時代になったんで、そこまで重いものでもないかもしれないんですけど、一つ目新卒で入る会社はきちんと選ばないとイケないし、自分の考えと合ってなかったらしんどいんだなっていう。先輩社員の方がそうおっしゃっていたんで。そこで自分が何を考えているのかっていうのを見つめ直して。	転職ありきの時代／一 つ目新卒で入る会社は きちんと選ばないと イケない／自分の考え と合ってなかったらし んどい／自分が何を考 えているのかっていう のを見つめ直して	転職が前提の時代／初 職選択の重要性／自分 と就職先との価値観の 食い違い／自分の価値 観の確認	一般化した転職／初め て就く仕事の影響力／ 価値観のギャップ／自 己省察	転職の一般化／初職の 重みの認識／価値観の 合わなさが生むスト レス／自分の持つ価値 観の確認
9	たどり着いたのが、自分はあまりこだわりをもっていないんだというのが。今ある自分を満足できるというか。自分のいまの状況を受け止める性格なんだなっていうのに気づくことができたんで。そこはよかったなって思ってます。	自分はあまりこだわ りをもっていない／今 ある自分を満足でき る／自分のいまの状況 を受け止める性格／気 づくことができた	こだわりのなさ／自己 充足／自己を受容でき る性格／気づき	とらわれからの自由さ ／ありのままの自分の 受け入れ／自己発見	執着心の低さ／自己受 容できる自分の発見

「自分自身について」構成するサブカテゴリーのうち、「自己分析・理解」のストーリーラインは、「就職活動中には、自分の行動を定める思考基準を確認したり、内省による勤労観の深まりを得ることができるため、自己像を内省する好機になる。例えば、就職活動の中で気づいたのは、自分の執着心の低さであり、自己受容できる自分の発見だった。また、自分は強く明確化した就職目標を持っているようなキャリア上昇志向高い人に対する気後れすることを実感した。最近では友人に、進路を決めていく時期では思いもよらない出来事が起こることを話していて、表現と説明の上達した自分に気づいた」と紡

いだ。

「自分自身について」のもう一つのサブカテゴリー「自分への教訓」のストーリーラインは、「就職活動中に経験する緊張による面接時のパニックは、緊張克服のための事前準備不足によると思う。大学受験とも通じるが、ハードルの上げすぎからくる精神的負担を経験したことから、自分には余力を残した実力の発揮が適していることとつながっている。実際の就職では、キャリアアップとやりたいことの実現のためには、実力をつけるのは自分次第であり、与えられた境遇の最大活用にかかっている」と紡いだ。

表 3-2 SCATによる2回目インタビューデータの分析

番号	テキスト	<1> テキスト中の注目すべき語句	<2> テキスト中の語句の言い換え	<3> 左を説明するようなテキスト外概念	<4> テーマ/構成概念 (前後や全体の文脈を考慮して)
10	1つもらうと、もうここでいいやみたい。今に満足しちゃうってところにつながるんですけど。内定1つもらったら、そこまでの、そこに至るまでのやる気と比べると落ちちゃったなというのがあるんで。そこに、自分の長所であり欠点であるという、その1つもらったことで高みを目指せなくなる、というのはあかんかったなって、就活を通して思います。	もうここでいいや/内定1つもらったら、そこまでの、そこに至るまでのやる気と比べると落ちちゃったなというのがあるんで/そこに至るまでのやる気と比べると落ちちゃった/自分の長所であり欠点である/1つもらったことで高みを目指せなくなる	満足/内定獲得による就活継続の意欲低下/長所と短所は同じもの/1社の内定獲得で就活終了	達成感もたらす意欲低下/表裏一体の長所と短所	現状への満足感が招く達成意欲の冷却/長所と短所は一体
11	もともと、明確にそこに行きたいという目標もなく、働いて死ななかったらそれでいい、みたいな感覚だったんで。就活に対する考え方も、そこですぐモチベーション高く、ここに行きたい、こういうキャリア積んで、みたいな目標を持つてる人を見ると、冷めちゃうとか。ちょっと、熱い人を見るとしんどくなる部分があるんで、そこは就活を通して見えたところで。	明確にそこに行きたいという目標もなく/ここに行きたい、こういうキャリア積んで、みたいな目標を持つてる人を見ると、冷めちゃう/熱い人を見るとしんどくなる	そこに就職したいという明確な目標/目標とするキャリアパスをはっきり持つ人へのしらけ/意欲高い人への気後れ	強い志望理由/意識高い人への違和感/熱心さへの興ざめ	強く明確化した就職目標/キャリア上昇志向高い人に対する気後れ
12	大学受験の時、勉強のしんどさから途中で成績が伸びなくなっちゃったんで、逆に高い目標を持ちすぎて、心とか病んでしんどい時期があったんで。そういう経験もあって、ここに行きたい、自分の中で決めてしまっ、すぐしんどくなっちゃうんで、ある程度、7/8割の力で認めてくれる、発揮できるところがあればそこでいいのなかって。	高い目標を持ちすぎて/心とか病んでしんどい時期があった/ある程度、7/8割の力で認めてくれる、発揮できるところがあればそこでいい	高すぎる目標設定/精神的な苦痛/7~8割の実力発揮	上げすぎたハードルによるつらさ/ほどほどに頑張る	ハードルの上げすぎからくる精神的負担/余力を残した実力の発揮
13	本当に、どこの企業に行こうが、トップに行けば自分のやりたいことができるだろうし、自分がどれだけそこで自分の力を伸ばせるかとかだと思うんで、入る企業も頑張り次第だと思っんですけど、いま内々定もらったところでも、ステップアップしていけば、今やりたいと思ってる仕事にも就けると思うんで、今は与えられたもので勝負していくのがいいのかなって思ってます。	どこの企業に行こうが、トップに行けば自分のやりたいことができる/自分がどれだけそこで自分の力を伸ばせるかとか/頑張り次第/今は与えられたもので勝負していくのがいい	どの企業でも上の立場に就けばやりたいことができる/自分の実力をどれだけ伸ばすかが重要/自分次第/今の条件で勝負する良さ	役職昇進と裁量拡大/成長は自分次第/与えられた環境の活用	キャリアアップとやりたいことの実現/実力をつけるのは自分次第/与えられた境遇の最大活用
14	面接となると緊張感にやられてしまって、自分の話したいことが離せないことが最近受けたところでもあったので。受けてるときにもうあかんなって自分に気づいてしまって、何を話したのか記憶もなく、うわってなってしまったことはあったので。自分の分析が足りてなかったと思いました。緊張をコントロールする練習をしとけばよかったなと思います。	面接となると緊張感にやられてしまって/何を話したのか記憶もなく/うわってなってしまった/自分の分析が足りてなかった/緊張をコントロールする練習をしとけばよかった	面接の強い緊張感/何を話したか覚えていない/混乱状態/分析不足/緊張をコントロールする練習の不足	緊張感による圧倒/頭が真っ白状態/混乱/シミュレーションの必要性/緊張のコーピングスキル不足	緊張による面接時のパニック/緊張克服のための事前準備不足
15	不安を抱えがちな友人から就活も含めていろんな話を聞く中で、考え方が大人だねって言われるようになって。今まで自分、そんなこと感じたことなかったんですけど。	不安を抱えがちな友人/考え方が大人/今まで自分、そんなこと感じたことなかった	よく不安を持つ友人/大人の考え方/今まで感じたことのない自分の側面	不安傾向を持つ友人/分別のある人/新たな自己像	不安傾向の友人/分別ある成長した自分の新たな面
16	就活を通じて、やっぱり、就活なのか受験期を通してなのか、人生何が起こるのかわからないことを話していると、自分の考えを伝えるのがうまくなったのかなとは思っています。	就活なのか受験期を通してなのか/人生何が起こるのかわからない/自分の考えを伝えるのがうまくなった	就職活動や大学受験を通して/予測できない人生の出来事/自己表現力の向上	進路を選択する時期/予想外の出来事/説明能力の上達	進路を決めていく時期/思いもよらない出来事/表現と説明の上達
17	自分が必要とされている企業に行きたいというのが、就活を通して大きく感じたところです。	自分が必要とされている企業に行きたい	求められている企業への就職	自分に対する需要	必要な人材として受け入れられる就職

以上のストーリーラインより, 理論記述を行った (表 4, 5). SCAT における理論記述の理論とは, ストーリーラインからどのような知見が得られるかを考え, その知見を一般性, 統一性, 予測性などを有する記述形式で表

記したものである<sup>8)</sup>. すなわち, ここでの理論記述とは, 普遍的で一般的に通用する原理のようなものではなく, 「このテキストの分析によって言えること」を指す<sup>7)8)</sup>.

表 4 1回目インタビューデータから得られたカテゴリーごとの理論記述

カテゴリー	サブカテゴリー	理論記述
就職活動について	目指したいあり方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・満足して働ける就職には, 就活の中間点としての内定獲得を実現しつつ, 価値観と合う就職を追求することが必要である.</li> <li>・偶然的に進行する就職活動では, 早い内定獲得に執着せず, 自分としてできる最善に取り組むことが重要である.</li> <li>・内定を獲得した際は, その企業の業界内での順位と, より上位の企業への志望意向とを考慮しながら, 志望度と企業順位的一致を図る.</li> </ul>
	活動の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オンライン化就活では自宅から参加可能で距離によらない利点があり, 学生は実地での従来型就活にはない新しいメリットを実感している.</li> <li>・実際の選考では, 足きりにあわないための対策に加えて, 印象のよい会話やうまく話すためのスキル不足を克服する練習が必要である.</li> </ul>
業界について		<ul style="list-style-type: none"> <li>・人の笑顔をつくる食事と健やかな生活が人の幸せに直結すると考えていることが, 食関連業界への志望理由である.</li> <li>・食べ物を大事に扱う姿勢は, 食品ロス問題への強い関心や食品廃棄の解決への興味を高める.</li> </ul>

表 5 2回目インタビューデータから得られたカテゴリーごとの理論記述

カテゴリー	サブカテゴリー	理論記述
就職活動について	目指したいあり方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業研究など職業理解が進むことで, 職業人としての自己像や, 仕事の中で何をやりがいとしたいのかが明確になる.</li> <li>・初職の重みの認識は, 転職が一般化しても同じである. 自分と就職先の価値観の合わなさによるストレスを回避するためには, 自分の持つ価値観を確認することが必要である.</li> <li>・学生は, 企業から必要な人材として受け入れられる就職を望む.</li> </ul>
	活動の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就活戦術としての内定キープは, 気持ちのゆとりを生む一方で, 現状への満足感から達成意欲の冷却も発生する. ゆえに, 内定を確保することの長所と短所は表裏一体である.</li> </ul>
業界について		<ul style="list-style-type: none"> <li>・多忙サービス業としての飲食業は, アルバイトからは業界内部の実態が見えない不安や, 社員の強い労働負担強の印象が就活生にとってのネックである.</li> <li>・スーパー業界は, 食の仕事に就けるといいう魅力がある一方, 大事な食べ物を捨てる不合理的な仕事という側面を持つ.</li> <li>・ドラッグストア業界は, アルバイト経験が慣れという経験値を上げる実習になることから, この業界への就職は現実的に捉えられる.</li> </ul>
自分自身について	自分への教訓	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職活動中に経験する緊張による面接時のパニックは, 緊張克服のための事前準備不足が原因である.</li> <li>・大学受験とも通じるが, ハードルの上げすぎからくる精神的負担の経験から, 余力を残した実力の発揮が自分には適していると気づいた.</li> <li>・就職では, キャリアアップとやりたいことを実現するために必要な実力を獲得するのは自分次第であり, そのためには与えられた境遇を最大限に活用することである.</li> </ul>
	自己分析・理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職活動は, 自分の行動を定める思考基準の確認や, 勤労観の深化といった自己像を内省する好機である.</li> <li>・就職活動中に, 自分の執着心の低さや, 自己受容できる自分を発見することがある.</li> <li>・非常に明確化した就職目標を持っているような, キャリア上昇志向の強い人に対する気後れする学生もいる.</li> <li>・友人に, 進路を決めていく時期で想定外の出来事が起こることを話すことで, 表現や説明が上達したことに気づく.</li> </ul>

## 4. 考察

まず、「就職活動について」については、「目指したいあり方」として、就職活動の初期段階では自分の価値観や志望度と志望企業との一致を目指すことに意識が向いていたが、活動の進展を経て、職業人としての自己像や仕事の中でのやりがいに関する意識を持つようになったことがわかる。このことは、就職活動の経験を通じて職業理解と自己理解の両方が深まったことによるものと思われる。また、内定を獲得することについての意識から、初職の重みについてや、転職、仕事の上で抱えるストレスなど、就職後の働き方に向けた意識が芽生えていることもうかがえる。これより、内定獲得という一時点の出来事についての意識から、就職後の中長期的なキャリア形成を考えていく視点を持つように変化したことが推察される。

また、「活動の方法」については、まずは内定を獲得することで心理的な安心感を持つことの重要性は、1回目と2回目で共通して認識しているが、実際に内定を獲得した後は、その内定をキープすることの功罪について気付いたことが読み取れる。これは、安心感をえられる反面、より選考難易度の高い企業に受験するために就職活動を継続する意欲が減退するということを意味している。就職活動に関する不安の先行研究では、不安が高いほど就職活動が多く行われるという指摘<sup>[9]</sup>と、不安が高まると活動量が低下するという指摘<sup>[10]</sup>の両方がある。この違いについて、松田他<sup>[10]</sup>は、Blustein & Phillips<sup>[9]</sup>における不安はすでに活動が行われている時点のものであるのに対し、松田他<sup>[10]</sup>では活動前から活動初期における不安を扱っており、不安が経験される時点が異なるためであると指摘している。本研究では、不安の軽減が活動量を低下させたと考えられるが、ここでの不安は就職活動の中盤以降の時点であるといえる。不安を経験する時点の違いによって、不安が就職活動の取り組みに異なる影響を与えることが、本研究の結果からも示唆される。

次に、「業界について」では、初期段階では食関連の企業に志望していることが見られたが、2回目のインタビューでは、食関連業界への就職に関する不安材料が見いだされ、他方でスーパーやドラッグストアといった他の業界との比較も行われていることがわかる。就職活動を体験する中で、業界に対する理解の広がりや、志望する業界の吟味が進んだことが見て取れる。

加えて、「自分自身について」の категорияは、2回目のインタビューデータから抽出されたものである。1回目インタビューからは上述の「目指したいあり方」において、価値観という言葉の上で自分自身を語っているとも言える箇所があるものの、自分自身について多く語ってはいない。これより、就職活動の経験を重ねる中で、自分自身についての思考や認識が深まったといえることができるだろう。

「自分への教訓」のサブカテゴリーについて、本研究では、面接時の緊張を克服するための準備という就職活

動上の対策が必要であったことに加え、大学受験という過去の体験と関連させながら、精神的負担に対する自分のキャパシティについての気づきや、与えられた境遇を最大限活用することで、望むようなキャリア形成が達成可能になるという気づきが得られていることが示された。浦上<sup>[1]</sup>では、このカテゴリーは「自分自身や自分の行動などについての指針となるような気づき」とされている。本研究でもこれと同様の気づきが得られているといえるだろう。また、浦上<sup>[1]</sup>は、「自分への教訓」自体が自己指導的なものであり、その後の生活における指針としての影響を強く持つと指摘している。本研究では、生活というよりは、実際に職に就いてからのキャリアを歩む上で支えとなり、キャリア発達を促進させるような指針を得ていることが特徴的である。

また、「自己分析・理解」のサブカテゴリーについては、就職活動の経験によって、自己の行動基準の確認や、自己像についての内省が行われることを示している。さらには、今まで気づかなかった自分の新たな面を発見し、かつそれを前向きに受け入れるということが示された。西村・種市<sup>[4]</sup>は、就職活動の活動期の回顧的インタビューデータから、「自分の発見と受容」というカテゴリーを抽出し、長所の発見と弱点の受容という二つの概念を示している。ここでの弱点の受容とは、発見した短所を受け入れようという姿勢を指している<sup>[4]</sup>。本研究では、短所の受容というよりは、ありのままの自分らしさというものに気づき、そしてそれを肯定的に受け入れている姿を表しているものと推察される。また、高橋・岡田<sup>[3]</sup>は、自己への理解が深まり自己を肯定的に受け入れている学生は、入社前の就職準備行動や大学生活充実促進行動を積極的に行う傾向があると指摘している。これを踏まえると、就職活動を体験する中で進む自己理解や自己受容の変化は、学生の自己成長を促し、就職先の確保のみならず、卒業までの残された大学生活を充実させたり、就職後のキャリア発達を促すために肯定的に作用する要因であるといえるだろう。

## 5. まとめ

就職活動を体験する中で、就職先の確保という視点から、就職後の中長期的キャリアの歩みについての視点を持つようになること、内省を通じて自己理解が深まることを通じて、ありのままの自分を受容できるようになること、に気づくという変化が生じたことが示された。これは、大学生の進路決定のプロセスにおいて、自らの過去や未来に対する捉え直しが行われるとする指摘<sup>[11]</sup>と通じるものであるといえ、かつ自分の新しい側面に気づきそれを受け入れるという、現在の自分の捉え直しも行われているといえるだろう。このことは、職業能力開発施設や高等教育機関における職業指導およびキャリア支援を実践する際に、過去に蓄積されてきた知見に加えて、一事例として参照することができるものと思われる。

今回の調査は事例的検討であることの限界がある。今

後, 異なる就職活動経験を持つ学生を対象とした研究を蓄積する必要がある。就職活動から中長期的なキャリア発達を見すえたキャリア教育・支援の構築に向けて, このような研究を重ねていく必要があるだろう。

#### 参考文献

- [1] 浦上昌則:「就職活動を通しての自己成長—女子短大生の場合」 教育心理学研究, Vol. 44, No. 4, pp. 400-409 (1996).
- [2] 小島弥生:「自己呈示としての就職活動に関する探索的研究—準備活動, 日常生活での自己呈示スタイルおよび評価欲求の影響について」 埼玉学園大学紀要, 人間学部篇, Vol. 6, pp. 59-70 (2006).
- [3] 高橋南海子, 岡田昌毅:「大学生の就職活動による自己成長感の探索的検討」 産業・組織心理学研究, Vol. 26, No. 2, pp. 121-138 (2013).
- [4] 西村圭子・種市康太郎:「大学生の進路決定における心理的プロセスに関する記述的研究(1)」 心理学研究:健康心理学専攻・臨床心理学専攻(桜美林大学), Vol. 1, pp. 46-60 (2011).
- [5] 浦上昌則:「就職活動経験がその後の生活に与える影響について」 悠峰職業科学研究紀要, Vol. 6, pp. 5-13 (1998).
- [6] 大谷尚:「4 ステップコーディングによる質的データ分析手法 SCAT の提案—着手しやすく小規模データにも適用可能な理論化の手続き—」 名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要(教育科学), Vol. 54, No. 2, pp. 27-44 (2008).
- [7] 大谷尚:「SCAT: Steps for Coding and Theorization—明示的手続きで着手しやすく小規模データに適用可能な質的データ分析手法—」 感性工学, Vol. 10, No. 3, pp. 155-160 (2011).
- [8] 大谷尚:「質的研究の考え方—研究方法論と SCAT による分析まで—」 名古屋大学出版会 (2019).
- [9] Blustein, D. L., & Phillips, S. D.: “Individual and contextual factors in career exploration”, *Journal of Vocational Behavior*, Vol. 33, No. 2, pp. 203-216 (1988).
- [10] 松田侑子, 永作稔, 新井邦二郎:「大学生の就職活動不安が就職活動に及ぼす影響—コーピングに注目して—」 心理学研究, Vol. 80, No. 6, pp. 512-519 (2010).
- [11] 田澤実:「大学生の進路決定時期と決定理由—就職活動前後の大学3年生, 大学4年生を対象にして—」 大学院研究年報(中央大学大学院), Vol. 33, pp. 181-193 (2004).

(原稿受付 2022/04/01, 受理 2022/04/18)

\*森本 康太郎, 博士 (心理学)

大阪国際大学, 基幹教育機構, 〒570-8555 大阪府守口市藤田町 6-21-57

Kotaro Morimoto, Institute of Liberal Arts and Proactive Learning, Osaka International University, 6-21-57 Todacho, Moriguchi, Osaka 570-8555.

Email: k-morimoto@oiu.jp